

第36回東日本人権・同和教育講座 (2025年2月15日 長野市中央隣保館)

全国人権教育研究協議会(全人教)及び本協議会共催による標記講座を、長野市にて行いました。県内及び東日本、全国の主だった方々にご参集いただき、全体講座および実践報告をもとに、中学校における現在の人権同和教育のことや、「きつ音」にかかわる学習をすることばの教室での活動等について、熱心に聴き、また意見を述べ合いながら、それぞれが新たな気づきや学びを得て、これから自分がどう生きていくのかを考えていくきっかけとなる場となりました。



全体講座では、「人権教育の“いま”、“これから”」～子どもたちの思い・願いから考える～と題して、滋賀県近江八幡市立八幡西中学校の三輪邦雄さんよりご講演をいただきました。参加者からは、

・三輪さんの「差別を見ようとしなない人(教員)が多いことに愕然としている」という話があったが、「知っていてもやらない、しようとしなない人も多い」ことが、とても問題であると感じている。「私に関わるのを嫌がるから、私は関わりたくない」という教員もいた。(群馬)

・“子どもが主体”、“生まれてきた時代の違いだけ＝先に生まれた人だけではなく”等、人として生まれてきた平等性を大切にしていることに、自分の現役時代をふり返らせてくれたと同時に、今後自分の立ち廻りを気づかせていただいたことに感謝する。(神奈川)

・三輪さんのお話を伺い、教員も子どもたちも共に考え、学びつながら「仲間」の大切さを強く感じ、その中の「ファーストペンギン」が決定的に重要な鍵を握っていると感じた。きっと勤務した学校で三輪さんがそうなのだろう。自分の勤務場所が、熱い教室、学校になっていないのは何故なのか、まずは自分から「一歩踏み込む」ことを取り組む課題として持ち帰りたい。(千葉)

・「学ぶ」から「なくす」を胸に、残りの時間を大切に過ごしていこうと強く感じさせていただいた。昭和40年代に受けた小学校での同和教育での学びもあり、その後の学びもあった三輪さんのお話で、それらと私がこれからすべきことが“すーっと”ひとすじにつながった感じがする。(千葉)

・研修講師は教室にいる。その講師に語ってもらえる状況をつくるのが教員の仕事なんだということがわかった。思いを受け止めたら、こちらの思いを返す。これが無ければ、共に行動にはならない。「子どもの意見をきく」が問われている。八幡西中の学校づくりから学びたい。「学校は地域の中の保健室」という言葉を持ち帰りたい。(大阪)

・三輪さんのように、生徒や仲間の本音・気持ちを聞けるような活動をめざしたいと思った。兄のこと(障がい)をマイナスと思っていた生徒さんの話が自分と重なった。(千葉)

・差別をなくすための実践や仲間づくりについて、「進めていかなければならない」と新たに感じた。(神奈川)

・原点に戻り、もう一度子どもと関わりたと思った。(長野)

・「わかり合えなくても仲間」とてもいい言葉だと思った。(長野)

・人とかかわりをどうつくっていくのかということ、何を語り、何を知り、その中で何を共に考え、やっていくのかということの大切さを感じた。確かな人間

関係をつくることができれば、それをもとにして、どう接していくのかということについても考えることができる。人との関係性がつくられ、互いの思いを出し合って、考え合っていく社会がつくられていくのではと思う。(長野)

・「正しい自分」にのみ目を向けるのではなく、「自分の弱さ、差別をする心」と向き合っていく教師(人)であることが大切なのではないかと思う。(長野)等のご感想をいただきました。

「教師対生徒」、「教師対教師」という関係を越えて、日常的に自分の考えを語り合うことをベースにしながら、「人



全体講座 三輪 邦雄さん
(近江八幡市立八幡西中学校)